

前書き

だんじり彫刻師、これが僕の肩書きです。

少し自己紹介させていただきますと、僕は昭和51年（1976年）8月、大阪府堺市で生まれました。生まれ育った堺市鳳地区にも歴史あるだんじり祭りがあり、子どものころからだんじりバカでした（だんじりは、岸和田がとにかく有名ですが、大阪府下に限らず関西圏にたくさんあるのです。これも、あまり知られていませんが……）。寝ても覚めても「だんじり、だんじり」と両親を困らせたもんです（笑）。

だんじりと聞いて、皆様は何を一番に思い浮かべるでしょうか？ 彫物（岸和田界限の泉州地域では木彫刻のことを彫物と呼びます）、木彫師とピンとくる人はいったいどれくらいいるのでしょうか？

派手で危険な祭り、家や電信柱を倒す祭り、けんかや事故が多い祭り、という認識しかない方々がほとんどではないでしょうか？

これだけでは、だんじりの本来の価値を半分も理解していません。この本を読んでいただいた方には、少しでも、だんじり祭りや、だんじり彫刻の美を知っていただき、だんじりが町会の方たちとかにして製作されていくのか、「町の宝」と言われるゆえんを理解していただき、皆様に本当のだんじりを知ってほしいと願っています。

あとで詳しく書かせていただきますが、だんじり彫刻師になるまでには、紆余曲折があり、念願だった彫師の、木彫岸田・岸田恭司師に弟子入りしたのが、21歳のときでした。

10年間の修行を経て、平成20年（2008年）に独立をさせていただき、現在の岸和田市南上町にて「木彫前田工

房」を立ち上げることができました。

それから早いもので、平成30年（2018年）で創業10周年を迎え、その10年間で彫物責任者として、新調だんじりを2台製作させていただくという幸運にも恵まれ、彫物の彫り替えという大修理の仕事も多数やらせていただき、現在、3台目の新調だんじりの注文も頂いております。

ひとつひとつの仕事にそれぞれ思い出があり、今の木彫前田工房・前田暁彦の血となり肉となり、財産になっております。

10周年記念の一大イベントとして平成31年（2019年）の3月には、堺市・堺市教育委員会・公益社団法人堺観光コンベンション協会・一般社団法人KIX泉州ツーリズムビューローに後援にいただき、堺の大仙公園で「前田暁彦木彫展 Spirits of Japan ～やかい春の陣～」を開催することもできました。

堺市鳳地区長承寺・だんじり、堺市八田荘地区毛穴町・だんじり、堺市津久野地区大東・だんじり、東大阪市岩田町・獅囀み、阪南市山中溪・幕板、といった貴重な町の宝をお借りして、一大イベントを各町会、各町祭礼団体、前田暁彦木彫展実行委員会、Onoroiさかい実行委員会の皆様のおかげで開催できたことは、だんじり彫刻師として、これ以上ない最高の栄誉だと思っております。

次の20周年のイベントは何をしようかな？（笑）

さて、なぜ、だんじり彫刻師である僕が本を書くことになったかと言いますと、全国の方々が、だんじりはおろか、だんじり彫刻、だんじり彫刻師について知らないことだらけで、「だんじり彫刻をもっと知ってもらわなければ」と感じたエピソードがあったからなのです。

最近は、作品展で全国に行かせていただけようになったのですが、札幌で作品展をさせていただいたときに、同じ町のだんじりの写真で、祭り最中の写真と、庫屋に保管しているときの彫刻がよくわかる写真とを2枚飾っていました。すると、作品展に会場してくださった方が、祭りの最中の写真を見て、

「あゝ岸和田のだんじり祭りやね〜」

と、すぐにわかってくれました。僕も心の中で、「あゝだんじり祭りも有名になったもんだ」と思い、嬉しくなり、「そうなんですよ〜これがだんじり祭りで使われている、だんじりの彫刻なんですよ」

と、自分の作品を指差して見ていただいたところ、「?」って顔をなさる!

すかさず、だんじりの庫屋に保管されている状態の写真を見ていただき、

「だんじりって本体はこれなんですよ」

と説明すると、びっくりして最初は信じてくれません。

「これは曳行するんじゃないくて、飾っておくほうのだんじりでしょう?」

と……。

「いえいえ、これを本番も曳っぱりまわしてるんですよ」

と伝えると、

「えーっ、もつたいない、こんな作品を付けているのに、家や電柱にぶついたりしているの〜バカじゃないの? 全

然知らなかったわ〜」

「こんな素晴らしい作品が付いているなら、実物を見に行きたくなっただわ〜」

と言ってくださいました。

さらに僕に、「もつとこの素晴らしい木彫を宣伝しないとダメよ〜」とも言ってくださいました。

僕もここ数年ずっと思っていたことをズバッと言われてしまいました。もっと全国にだんじり祭りだけではなく、だんじり彫刻も広めていきたい。

メディアのおかげで「だんじり」という言葉は全国的に有名になり、100%とは言いませんが、多くの方々に知っていたにはいるけれども、その中身である彫物については、ほぼ0%と言っていいほど知られていない、あまりのだんじり彫刻に対する認知度の低さに驚きました。これが現実であり、これはよくないと、1人でも多くの方々に日本の伝統工芸である木彫刻を知っていただきたいと思ったことが、この本を書くきっかけになりました。

読み終えた皆様に、読む前とは違う観点でだんじりを見ていただき、曳きまわすだけの道具としてのだんじりではなく、だんじり彫刻の付いた芸術品としての奥深さに少しでも触れていただけたらなと思っています。

「だんじりを見る＝彫物を見る」という方が1人でも増えることを願って筆を執り、書き進めていこうと思います。